

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：82679

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25862270

研究課題名(和文)在宅介護による家族介護者の健康への影響と健康支援体制の検討

研究課題名(英文) Support systems and challenges for their health among family caregivers caring for the elderly at home

研究代表者

鳥本 靖子(Torimoto, Yasuko)

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団・その他部局等・研究員

研究者番号：90566241

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：時間の経過とともに介護を行う状況が健康面にどのような影響を与え、変化していくのかを介護をしていない非介護者を対照群とした分析を行い検討した。主観的健康感についてSF-8のスコアを用いて分析した結果、身体的サマリースコアで、介護者は非介護者に比べて有意にスコアが低下するという結果が示された。一方、精神的サマリースコアに有意な変化は認められなかった。

また、介護現場における家族介護者への対応状況と課題に関する基礎的調査を行った結果、提供サービス事業者により現場スタッフの家族介護者への関わりと職務内容の考え方や現状の支援体制の捉え方・介護の社会化の考え方についても差が見られた。

研究成果の概要(英文)： Researchers have not yet assessed the changes in caregivers' health over time, using survey methodology. Any discussion of support programs for family caregivers requires understanding the variations in their health during caregiving. The purpose of this study was to examine the changes in subjective health conditions of family caregivers, compared with non-caregivers, using a 1-year follow-up study. Caregivers reported worsening health, primarily physical health, over time while caregiving at home. No changes were seen in mental health over the time period.

The purpose of another study was to clarify the challenges on the services and support for the family caregivers provided by home care staff. Their attitude about the supports for family caregivers and the socialization of caregiving differed from individual background.

研究分野：公衆衛生看護、高齢者看護、地域看護

キーワード：家族介護者 介護者支援

1. 研究開始当初の背景

家族介護者は、「隠れた患者」(the hidden patients)と言われて以来 (Fengler, 1979)、家族介護者に着目した研究がなされてきた。

我が国においては、先行研究による介護者の健康課題の検討(杉浦 2004、森 2007、鈴木 2010)は、質問紙調査による介護者の主観的な側面を測る包括的健康感や抑うつ状態、自覚症状による検討が多くなされている。

客観的なデータとして生理・生化学的指標を用いた介護者の健康に関する研究は非常に少ないなか、女性介護者について調べた星野(2009)は、介護者に高血圧や低 HDL コレステロール血症が多いこと、主観的に健康でないと答えながら健診受診率は低いことを指摘している。さらに、我々が 2011 年 6 月から 2012 年 8 月にかけて行った介護者への横断調査結果でも、介護者群がコントロール群と比較して有意に血圧が男女ともに高く、さらに女性では、慢性腎臓病(CKD)の基準となる推算糸球体濾過率(eGFR)の値が有意に低いという結果が示された。

このように介護者の心身の状況が指摘されるなか、時間の経過とともに介護を行う状況が健康面にどのような影響を与え、変化していくのかは明らかでない。

また、心身の不調を抱えた介護者に対する支援策は残された課題となっている(笹谷 2008)。

現段階で、介護をする者を支援するための法やシステムは十分に整備されておらず、「介護する者が問題を抱えている場合、介護サービス提供者はどこまで関わればよいのか。」という課題があり、その実際の対応は、「単なる傾聴」から「自分の立場で何とかすべき領域ではないと考える。」という判断まで様々である(湯原 2012)。

一方で、一般高齢者への健康づくりの政策枠組みでの健康対策を介護者へ適用することは、社会との接触機会や自由な時間の制限のある家族介護者(笹谷 2012)にとって、配慮を欠いたものであり有効的な手段とは言えない。

介護保険法を根拠とする家族支援事業は任意事業であり、自治体には行わなければならない義務はない状況下において、介護者支援は不十分であり困難な状況である。しかし、家族介護者を要介護者の支援者として捉えるのみならず、家族介護者自身をハイリスク群と捉え、予防活動のひとつとして家族介護者への支援対策をいかにして行われるべきかを検討していくことも必要だと考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、①隠れた患者といわれる家族介護者の長期にわたる在宅介護による健康上の変化と課題、②介護を取り巻くサービス供給体制の課題の 2 点を明らかにし、家族介護者に必要な支援体制を検討することである。

「介護の社会化」を目的のひとつに掲げた介護保険制度が導入され 10 年以上が経過したが、家族介護者への支援については未だ不十分である。半数以上の家族介護者が体調不良を訴えているとされるが、介護という健康リスク要因と置かれた生活状況を踏まえた支援は手つかずの状況にある。家族介護者に適切なタイミングで必要な支援を検討することは、今後一層増加していく在宅介護の状況を鑑みても急務である。

3. 研究の方法

本研究課題に対し、次の 2 つを行った。

(1) 2011 年～6 月～2012 年 8 月にすでに実施していた介護者調査対象者に対して、6 か月後と 1 年後の追跡調査を本研究内で完了させた。初回の調査項目と同じ質問項目を用いて、追跡調査時の介護状況と主観的健康感等についての自記式質問票による郵送調査を行い、主観的健康感のスコアの経時的変化について対照群である非介護者と比較しつつ分析をおこなった。

(2) 現在の介護保険制度は、原則として家族介護者のためのサービス利用の時間設定はないために、家族介護者に関する課題への対応に苦慮しつつも、個別に対応しているものと思われるが、状況は明らかになっていない。そこで、介護現場における家族介護者への対応状況と課題を把握し今後の支援体制の在り方を検討するに際して、基礎調査を行うこととした。

東京都内指定居宅介護支援事業所リスト・地域包括支援センター一覧からシステムティックサンプリングにより地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・訪問介護サービス提供事業所・訪問看護ステーションの計 1916 事業所を抽出し、郵送式アンケート調査を実施した。

今回、調査対象に選んだ事業所は、在宅介護を行っている家族介護者と接点があり、利用頻度が比較的高いと思われるサービス内容を提供している事業所とした。

回答者は、各事業所の中で、現場での状況を把握しており、現在の勤務職種の経験が 1 年以上ある者と設定した。調査項目には、家族介護者への現場での対応状況・スタッフからみた家族介護者の負担感やその関連要因・家族介護者への現行制度の体制についての意見などを調査項目に含めた。

4. 研究成果

(1) 初回調査において性と年齢でマッチングした各 149 人の介護者と非介護者の内、112 人の介護者と 100 人の非介護者から 6 か月後と 1 年後の追跡調査データを得ることができた。その内、介護者については、継続して自宅で介護を続けていた 74 人について分析を行った。

3 時点における主観的健康感(SF8 を使用)のスコアの変化を介護者と非介護者を比較した。

基本属性		介護者 n=74	非介護者 n=100	p-value
性別(女性)	n(%)	45 (60.8%)	75(75.0%)	0.049
年齢(年)	mean±SD	63.6±9.9	63.9±10.0	0.686
教育年数(年)	mean±SD	12.5±2.3	14.4±2.8	<0.001
婚姻状況(既婚)	n(%)	53(71.6%)	74(74.7%)	0.729
就労状況(仕事あり)	n(%)	19(25.7%)	44(45.8%)	0.01

SF8 得点における介護者と非介護者の比較		介護者 mean±SD	非介護者 mean±SD	p-value
初回調査時				
PF(身体機能)		50.1±5.3	51.0±4.0	0.221
RP(日常役割機能(身体))		51.6±4.7	51.8±3.8	0.713
BP(体の痛み)		50.0±8.6	50.9±7.5	0.493
GH(全体的健康感)		50.4±6.6	51.5±5.7	0.254
VT(活力)		48.6±7.0	52.6±5.3	<0.001
SF(社会生活機能)		50.8±8.3	51.1±6.2	0.746
RE(日常生活機能(精神))		51.4±6.0	52.0±3.8	0.484
MH(心の健康)		51.3±7.6	51.6±6.0	0.810
PCS(身体的サマリースコア)		48.8±5.6	50.1±4.5	0.084
MCS(精神的サマリースコア)		50.4±7.7	51.5±5.8	0.286

	within-group comparison		between-group comparison
	介護者 p-value	非介護者 p-value	介護者 vs 非介護者 p-value
PF	<0.001	0.162	0.004
RP	<0.001	0.068	<0.001
BP	<0.001	0.782	0.001
GH	<0.001	0.662	0.001
VT	0.349	0.073	0.289
SF	<0.001	0.615	<0.001
RE	<0.001	0.074	0.007
MH	0.026	0.986	0.047
PCS	<0.001	0.316	<0.001
MCS	0.008	0.630	0.099

<図 1 : 1 年間の SF8 のスコアの変化>

その結果、身体的サマリースコアで介護者は非介護者に比べて有意に健康スコアが低下すると言う結果が示された。その一方で、精神的サマリースコアでは、有意な変化はみられなかった。現在の介護者支援プログラムは多くが、精神面をサポートする内容が大半だが、身体面をサポートする内容も検討することが必要と考えられるとともに、介護者に継続的な関わりの支援の必要性が示唆された。

(2) 都内各種指定居宅介護事業所リストから無作為抽出した居宅介護支援事業所(以後、居宅)・訪問介護サービス提供事業所(以後、訪問介護)・訪問看護ステーション(以後、訪問看護)各 500 事業所と全地域包括支援センター(以後、地域包括)416 か所の計 1,916 事業所に対し、平成 28 年 2 月に調査票を発送した。

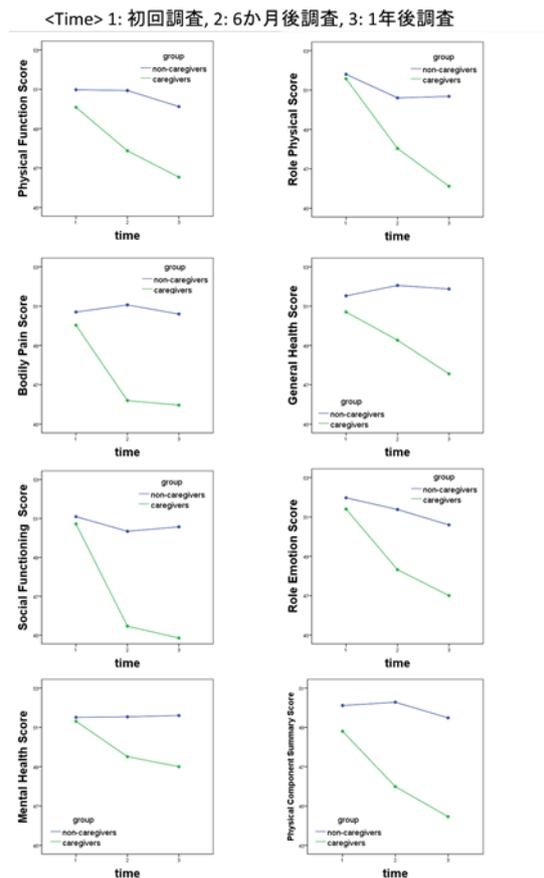
その結果、居宅 180 人(36%)、訪問介護 112 人(22.4%)、訪問看護 172 人(34.4%)、地域包括 117 人(23.4%)の計 581 人(30.3%)の返信があった。

基本属性		地域包括支援センター n=117	居宅介護支援事業所 n=180	訪問介護ステーション n=112	訪問看護ステーション n=172	合計 n=435
性別(女性)	n(%)	82 (70.1%)	134 (74.4%)	64 (57.1%)	155 (90.1%)	435 (74.9%)
平均年齢(歳)	mean±SD	47.3±8.9	51.4±10.2	46.7±11.7	47.2±8.8	
経験年数(年)	mean±SD	9.6±6.3	9.9±4.3	9.4±5.2	14.6±9.1	

業務上、家族介護者への対応に注意を払っている割合は、訪問看護が高く(p<0.001)、家族対応に困難を感じる割合は、居宅が最も高く(p<0.001)、家族介護者と話をする時間が足りない割合は、訪問介護・地域包括が高かった(p<0.001)。また、家族介護者支援は、職務内容に本来含まないとした割合は、居宅と訪問介護が高く(p<0.001)、介護は本来家族が担うべきとした割合も、居宅が高かった(p<0.05)。

提供サービス事業所により現場スタッフの家族介護者への対応状況は異なり、家族介護者への関わりと職務内容の考え方や、現状の支援体制の捉え方・介護の社会化の考え方についても差が見られた。家族介護者との接点が多いサービス提供スタッフ間の認識が揃っていないことが伺える。今後は、介護の在り方や家族支援の在り方について社会的なコンセンサスを得るよう努めるとともに、現場スタッフの意識の一致の必要があると思われる。

<図 1 : 1 年間の SF8 のスコアの変化>



5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

Yasuko Torimoto-Sasai, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata and Noriko Yamamoto-Mitani, Female family caregivers face a higher risk of hypertension and lowered estimated glomerular filtration rates: a cross-sectional, comparative study, BMC Public Health 2015, 15:177, Published:22 February, 2015
doi:10.1186/s12889-015-1519-6

[学会発表] (計 1 件)

Yasuko Torimoto-Sasai, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata, Noriko Yamamoto-Mitani, Changes in the physical health condition of family caregivers caring for the elderly at home, The 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, February 5-6, 2015

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥本 靖子 (TORIMOTO, Yasuko)

ダイヤ高齢社会研究財団・研究部・研究員
(2016年4月より国際医療福祉大学小田原
保健医療学部・看護学科・准教授)

研究者番号：90566241